

東町のまっり囃子

桜林小学校 6年3組 西島 伊都

1 研究のきっかけ

私は年中のときから新型コロナウイルスが広がった時期をのぞいて、東町の秋葉神社では巫女舞(神子舞)、小学校3年生のときから桜井神社ではまっり囃子を小若として参加してきました。今年1月、まっり囃子の師匠が突然亡くなってしまいとても悲しかったです。演奏、コジメの打ち方については、いろいろ教わりましたがその歴史については何も分かっていなかったので調べようと思いました。



桜井神社の神子舞(2019)



桜井神社のまっり囃子(2025)

Point まっり囃子とは？

まっり囃子(祭礼囃子、祭囃子)は祭りのときに演奏される音楽で「おはやし」「はやし」と呼ばれることも多いです。日本三大祭囃子の神田囃子(東京都)、祇園囃子(京都府)、花輪囃子(秋田県)をはじめ、日本各地にあります。ここからは「はやし」と書きます。



祇園囃子

(<http://www.photo-ac.com>)



花輪囃子

(花輪ばやしHP: <http://hanawabayashicom>)

2 研究の方法

- ① 新編安城市史などの本を図書館で調べる
- ② インターネットで歴史を調べながら他地域の「はやし」の動画を見る
- ③ 実際に「はやし」をやっている方から歴史や曲目について伺う



図書館で調べる



東町のカメラの鈴木さんに話を伺う

3 東町のまっり囃子

(1) 東町とは？

- ・ 1765年(天明2年)に桜井村から分村した。
- ・ 岡崎通街道(大浜街道)と呼ばれる街道の東側にあるため東町となる。街道の西側は桜井町西町にあたる。

(2) 東町の「はやし」

- ・ まっり囃子のうち、打ち囃子と呼ばれるもの。
- ・ 祭礼で奉納するものであるため祭礼囃子、また演奏して練り歩くことから道中囃子とも呼ばれる。カンカンと甲高い高音が出て、「チャンチャン、チャボコ」と聞こえるため「チャボコ」とも呼ばれている。



1819年(文政2年)桜井村絵図トレス図1
(安城市教育委員会 2024から)

(3) 「はやし」に必要なもの

① 道具

- ・ コジメは胴が真ちゅう製ボルトのジャッキで破れる寸前まで皮を強く締める。破れる手前が最高の音色とされ祭りの朝に最終的な準備をする。
- ・ コジメを打ちこむバチはかつてはかしを細く削って作っていたが最近は竹を細割って削ったものになる。バチはブチともいう。
- ・ コンコロは、直径30.40cmほどの鉦留太鼓。太鼓は胴を横にして打つ。バチは長さ30cmほどのもの。
- ・ 笛は七つ穴の神楽笛と呼ばれるもの。
- ・ コジメ、コンコロ、笛は、神子舞でも同じ楽器が使われる。



東町のコジメ(2017)



祭りの朝(2023) ブチ作り (2026)

② 山車(だし)

- ・ 囃子車(屋台車)とも呼ばれ、平面が丁の字形をした土台に柱を立て、障子屋根を付けたもの。前に2個後ろに1個の車輪を付けた細長いもので、後ろの車輪で動きを操作する。
- ・ 山車の前方にコジメ(締太鼓)を4つ並べて、後ろの柱にコンコロ(鉦留太鼓)を1つしぼり付けて、笛にあわせて演奏しながら練り歩く。
- ・ 「はやし」はかつては太鼓を背負って移動したと言われる。1882年(明治15年)「ヤカタハヤシ 西端」(西町祭礼記録)とあることから、この頁は山車に太鼓をのせて練り歩くことは珍しかったのかもしれない。
- ・ 東町の昔の山車は昭和40年代まで使っていたものとされる。2017年(平成29年)北頁に歴史博物館に寄贈したという。



ブチをとぐ(2026) 東町のコンコロ(2024)



東町の山車(2018)

(4) 「はやし」の曲目

- ・ 時雨と呼ばれる六、七、八、九、十の5曲にシャギリと呼ばれる獅子子を含めた計6曲がある。「チャンチャンチャラボコチャラボコ」を基本にしつつ入れ事と呼ばれる曲の特徴となる難しい演奏がそれぞれあいだにはさまれる。六が基本。
- ・ 獅子は二人一組で行うもので、難易度が高い。私もいつか弟とたたきたい。



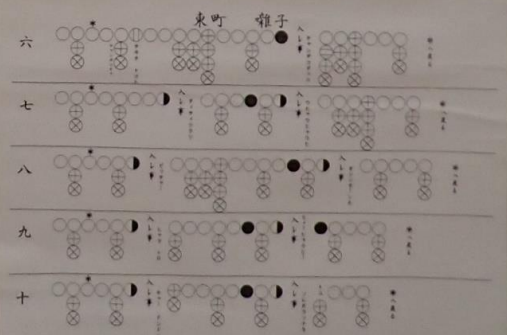
東町の山車(2023)



東町の獅子(2023)

※「新編安城市史」には三下り新囃子、祇園、安城市堀内町の民俗では時雨シャギリ(獅子、祇園)、はやし(三下り新、はやし、すりもち)と記されていたが今はやていない。カシラの鈴木さんも知らないそうです。

・ 曲については現在では打ち方を伝える楽ふがありそれを見て暗記できるようにしている。かつては師匠から弟子へ口伝で伝えられていたとされる。



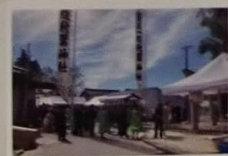
東町のはやしの曲目

(5) 秋葉神社の祭礼

- ・祭礼の前虫干しを行う。今年は7月27日に虫干しとブチヅリが行われた。
- ・練習は昨年度では8月25日(月)からの4週間。最初の2週間はゴジメ、コンコロ笛の個別練習。次の2週間は合わせて合同練習が始まる。合わせては神子舞の練習がメインになり、「はやし」の練習はそのあとになる。なおゴジメは神楽が1つはやしが4つで練習するので、その他の人は破れたゴジメの皮をたたいて練習する。
- ・祭礼は昨年度では9月21日(日)午前8時頃から神子舞を始めた。「はやし」は正午頃から小若若衆の順番で秋葉神社に奉納し、山車で町内の巡行を始めた。午後3時30分頃の神子舞の早神楽が始まる頃に秋葉神社に戻ってきた。東町のゴジメは岡崎市羽根町まで聞こえたという。



虫干し(2026)



秋葉神社の祭礼(2025)

(6) 桜井神社の祭礼

- ・練習は昨年度では9月29日(月)からの4週間だった。当番年(トウショ)でない年は「はやし」のみを練習する。
- ・祭礼は10月の最終日曜日。昨年度では10月26日(日)に開きされた。その前はしばらくの間、11月3日に固定されていた。
- ・午前8時30分頃から秋葉神社に小若若衆の順番で「はやし」を奉納した後、町内の巡行を始める。
- ・JAあいち中央桜井支店で昼休みをとり、桜井神社に向かう道路に出るときボンデン(ガリ)と呼ばれる村印、両脇に高張り提灯を立て先導して、その後は「はやし」の山車が続く。
- ・「ドンドロ坂」と呼ばれたという大鳥居(一の鳥居)の前に午後1時頃に全地区の山車が集合する。トウショの御幣を先頭にして、順番に社殿の階段上の決められている場所にボンデンを立てて、「はやし」を奉納する。「上り(ボリ)」は午後3時頃まで続けられ、終わった組から拝殿左手側で休けいする。
- ・すべての地区の奉納が終わると「下がり(サガリ)」が始まる。トウショの組より拝殿前に進んでボンデンには神社本展覧の神火を神主からいただき、点灯して「はやし」を奉納する。最後の組の「はやし」を奉納し終わるころ神楽殿ではトウショが早神楽を行う。午後5時頃に東町の公会堂に帰る。



練習の様子(2023)



秋葉神社をスタート(2024)



法行寺(2023)



JA桜井で昼休み(2023)



桜井神社への道(2025)



桜井神社への道(2024)



桜井神社への道(2024)



神社内で演奏(2023)



桜井神社で奉納(2024)

Point 桜井神社のトウショとは?

桜井神社では地域にある神社を守り行事を行う住民(氏子)の1組がトウショと呼ばれ、毎年交替で神子舞とはやしを行う祭礼当番になります。桜井7か村に城山(1974年に城山団地の入居募集開始)を加えた8組があり、トウショを東町とした場合、東町→堀内→印内→中開道→下谷→城山→城向→西町の順番になります。



城山(2024)



上り、下がり、東町のはやしのルート

4 桜井神社のはやし

東町のはやしを調べるなかで、東町のはやしは、堀内町、桜井町印内・中開道・下谷・西町・城向とともに「桜井神社のまつり囃子」として1977年(昭和52年)に安城市の無形民俗文化財の指定を受けていることを知りました。また2種類のはやしがあることもわかりました。

(1) 2種類のはやし

・東町と同じチャボコは桜井町印内・下谷・城向があるのに対して「チリカラ」と呼ばれるのはやしは堀内町、桜井町、中開道・西町で行われている。なおチャボコでも東町と城向はコンコロ太鼓、印内と下谷は長胴太鼓と異なる鉦留太鼓が使われている。

・チリカラは、チャボコの楽器であるゴジメ、コンコロ、笛の3種に太鼓(半切太鼓)、三味線などの楽器をくわえて演奏する。

・チリカラの山車は左右にみすを下げた底抜け屋台の中に入っではやしを行うものや屋台に乗り込んで演奏するものがある。

・1885年(明治18年)の「西町祭礼記録」に「金胴太鼓」と書かれているため、この頃にはチャボコが広がっていたものとみられる。同じ年、桜井神社に青野村荒井組(現在の岡崎市上青野町・下青野)がチリカラを奉納している。

・中開道では、1895年(明治28年)北原、青野村のむしろ織り職人からチリカラを教わりチャボコからチリカラに変えたと伝わる。その理由の一つに、チャボコは太鼓が練習中に何度も破れて、経費がかかるためという。この頃、西町、堀内はすでにチリカラになっていたという。



チャボコとチリカラ



印内のチャボコ(2024)



下谷のチャボコ(2023)
(明るい朝の祭礼日記, ameblo.jp/
everyday-sunny-morning)



城向のチャボコ(2024)



堀内のチリカラ(2024)



中開道のチリカラ(2024)



西町のチリカラ(2024)

(2) はやしの曲目について

『新編安城市史』『安城市堀内町の民俗』から桜井地区のはやしの曲目をまとめました。

伝承地	はやし			神子舞	
	種類	道具	曲目	備考	流派 備考
東町	チャボコ	ゴジメ4、コンコロ、笛	時雨(六、七、八、九、十)、シギリ(獅子、祇園)はやし(三下り新井しず子)	獅子は神前	南
印内	チャボコ	ゴジメ4、オカリ、笛	新井、新門、おかげ、(はう、しん、ぐれ)		南
下谷	チャボコ	ゴジメ4、オカリ、笛	マダラ、ミツ目、四ツ目、(五ツ目、じやうしん)、マダラ、ミツ目のアジ曲	神前では、マダラミツ目	南 下谷→城向・城山
城向	チャボコ	ゴジメ4、オカリ、笛	ぼづ、三、一、新、(四、七)		南 城向→堀内(昭和54年)
堀内町	チリカラ	大太鼓(オカリ、オカリ) 小太鼓2、鼓2、三味線2、笛20	竹雀、八軒町、衣裳付、徳川、竜水、春道、新竹雀、くずしたん		南 城向→堀内(昭和54年)
中開道	チリカラ	大太鼓1、小太鼓2、太鼓1、小鼓2、三味線2、3、笛	正殿都、天呂、竹雀、浦島、春道、徳川、からこ、千代の舞、宮下がり	竹雀は堀内から、浦島は西町から	南
西町	チリカラ	オカリ、オカリ、ゴジメ2、鼓、笛	てんの、竹雀、浦島、春道、(ぐに、大野、しの、ちの、舞、そう、かけ)	大野、しのは神前、そがけは下谷から	北 東町→下谷、西町(昭和54年)
城山	—	—	—		南 下谷→城向・城山

- ・ 印内、中開道、堀内西町については、フットベースボールのコーチから教えてもらいました。
- ・ 東町とは違い、本で書かれた曲がすべて行われていることがわかりました。

(3) はやしはどこからきたの？

- ・ ①熊野から伊勢を経由して伝えた(蒲郡市史) ②京都の祇園ばやしに起源を求め江戸時代中期に東海道矢作宿に泊まった公家から教わり別所、桜井を経て碧南市西端へ伝えた(碧南の音 チャラボコ風土記)など諸説がある。ただしどれが正しいかは資料から裏付けられてはいない。
- ・ 桜井神社の祭礼では、1804年(文化元年)に此年打はやし無し(西町祭礼記録)とあることから、この年にはやしの奉納がなかったこと、それ以前にははやしが奉納されていたものとする。

(4) その他の奉納

- ・ 1890年前後の桜井神社の祭礼には、神子舞(神楽)、はやし、棒の手^{しんぼ}、犬馬(かざり馬と馬丘馬)、獅子舞、犬弓射的、素人角力、花火などの奉納があり、やぶさめ、銭太鼓などがあった年もある。



- ・ 1772年(安永元年)にかざり馬、1774年(安永3年)に角力、1778年(安永7年)に棒の手が始まり、1806年(文化6年)に神子舞の「トウショ」を下谷が務めていたことが分かっている。

(西町祭礼記録)。このことから、18世紀後半から19世紀初頭にかけ桜井神社 桜井町下谷の棒の手(2025)の奉納の内容が出揃っていたものとみられる。

- ・ 祭礼の宮入りはかつて古井町のかざり馬とはやしを先頭とする決まりがあった。

Point 桜井神社の氏子の数は？

現在桜井神社には8地区の氏子がありますが明治の初め頃には行政単位の変化などにより多くの氏子がいました。1873年(明治6年)の西町祭礼記録をみると、桜井7か村のほかに旧氏子新氏子があり、26もの組がはやしを奉納していることがわかります。



●旧氏子 ●新氏子 ●打はやし(内はやし) ●獅子奉納

1873年(明治6年)桜井神社の氏子とはやし

※南組は寺領、藤井、古新田、新々田のまとまりと考えられています。

5 三河のはやし

桜井神社のはやしを調べていくと中開道にチリカラを伝えたのは岡崎の人であったように、三河にもこうした文化が広がっていることがわかりました。桜井地区を超えて、どのようなはやしがあるのか矢張りたくなりました。

(1) はやしの広がり

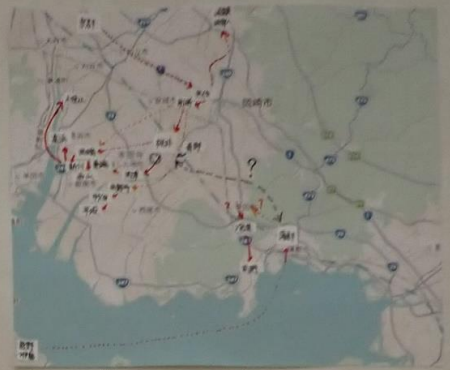
- ・ 打ち囃子は矢作川上流域を中心とする三河北部の山間部で盛んな打ち囃子矢作川下流域から蒲郡の三河湾沿岸部に伝わるチャラボコ西三河南部(諷町上横須賀、萩原、吉田)と豊川市域のチリカラ三河湾沿岸部の打ち込み太鼓というように分布が重なりながらも分かれています。
- ・ 市内では昔は大岡町、てやーいて、東端町、高棚町では今もやっています。



打ちはやしの広がり

(2) チャラボコはどのように広がったのか?

- ・三河にどのように伝わったのかはいろいろな説があるので地図にまとめてみました。西三河・東三河でそれぞれ広がっていることになりました。
- ・YouTubeでこの地域のチャラボコを聞いてみると、コジメ、コンコロの大きさやブナの太さなど道具の違いがあり、曲のリズムも違いました。
- ・これはあくまでわたしのすいそくですが、東町のはやしは、西三河というよりも蒲郡のはやしに似ているため、おたがいえいきょうしあって今の形になったと考えました。



チャラボコの広がり

6 おわりに

今回、自由研究をしてみて、桜井神社の祭礼のはやしは200年以上の歴史があり、自分もその一員であることを誇りに思います。戦後、はしが一度中断した中、復活させてくれた人たちがいたことを知りました。こうした無形の文化財を将来に引きついでいくことはむずかしいことですが、自分たちもやらせてもらっているので、長く地域でつなげていきたいと感じました。

また、東町のチャラボコの由来について、はきりとしたことはわかりませんが、いろいろな人から話を伺い、また本を読むなどをするなかで、自分なりの考えをまとめることができました。

今回は東町以外のはやしについては、自分が見てきたものやYouTubeといった動画の情報に限られるので、今後は他の地域のはやしも見にいきたいと思いました。



東町のチャラボコ(2024)



東町の鈴木さん(2026)



太鼓を作る三浦太鼓店さん



東町の田下さん(2023)

参考としたおもな本

- 愛知県教育委員会 1989『愛知の民俗芸能』/愛知県史編さん委員会 2005『愛知県史 別編 民俗3三河』
- 安城市 2003『新編安城市史9資料編民俗』、2024『安城市内村絵図集(改訂版)』
- 安城市歴史博物館 1992『安城市堀内町の民俗』、2012『桜井町の棒の手・馬の塔』
- 加藤良平編 1998『碧南の音 チャラボコ風土記』
- 蒲郡市史編さん事業実行委員会編 2026『蒲郡市史 本文編2 近世編』、蒲郡市史 本文編3 近代編 民俗編』
- 鈴木和彦 2001『十九世紀末の桜井神社祭礼あれこれ』安城歴史研究』第26号
- 小林賢治 2005『明治初期の郷村社制と地方行政区分—桜井神社を事例として—』安城史研究』第6号
- 新行紀—監修 2023『定本 矢作川』
- 新編岡崎市史編集委員会 1984『新編岡崎市史 史料 民俗19』
- 西尾市史編纂委員会 1980『西尾市史 現代 5』
- 西尾市史編さん委員会 2013『幡豆町史 本文編3 近代・現代』